

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	機体システム（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	受験に必要な各種システムの機能や取扱い等の知識を習得する。 二等航空整備士資格受験レベル(学期末試験にて70点以上取得)を目指す。		
授業計画	受験航空機及び二等航空整備士資格受験に必要な各種システムについて、その機能や取扱い等の知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空機システム」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) 受験航空機 サービスマニュアル 受験航空機エンジン オーバーホール・マニュアル等		
試験／成績 評価方法	受験レベル審査による評価		
その他	特になし		

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	電子装備品等（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に装備される各種電子・電気機器の構造、機能等の知識を習得する。 二等航空整備士資格受験レベル(学期末試験にて70点以上取得)を目指す。		
授業計画	航空機に装備される各種電子・電気機器の構造、機能等について二等航空整備士実地試験受験レベルの知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空電子・電気の基礎」、「航空電子・電気装備」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)、受験機の「サービスマニュアル」(飛行機メーカー)		
試験／成績評価方法	受験レベル審査による評価		
その他	特になし		

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	基本技術(学科) (座学・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機の「基本的整備技術」の知識の習得を目標とする。 二等航空整備士資格受験レベル(学期末試験にて70点以上取得)を目指す。		
授業計画	二等航空整備士資格取得のため必要な航空機の「基本的整備技術」についての知識を教授する。		
テキスト	「航空機の基本技術」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績 評価方法	受験レベル審査による評価		
その他	特になし		

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	機体（実技・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	112	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	受験航空機を対象に、その構造、系統、装備品等並びに航空機全般にわたる取扱要領や整備要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深める。二等航空整備士資格受験レベル(学期末試験にて70点以上取得)を目指す。		
授業計画	受験航空機を対象に、その構造、系統、装備品等並びに航空機全般にわたる取扱要領や整備要領を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。		
テキスト	受験機の「サービスマニュアル」(飛行機メーカー)		
試験／成績評価方法	受験レベル審査による評価		
その他			

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	電子装備品(電気・計器・通信) (実技・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	112	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	受験航空機に装備される電子・電気装備品を対象に、その取扱要領や整備要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深め、二等航空整備士資格受験レベル(学期末試験にて70点以上取得)を目指す。		
授業計画	受験航空機に装備されるまたは、二等航空整備士受験に必要な電子・電気装備品を対象に、その取扱要領や整備要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。		
テキスト	「航空機の基本技術」「航空電子・電気装備品」(日本航空技術協会 刊行)、受験機の「サービスマニュアル」(飛行機メーカー)、飛行規程ほか		
試験／成績評価方法	受験レベル審査による評価		
その他			

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	整備に必要な知見(機体・発動機・電子装備品)(実技・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	112	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	<p>受験機及び二等航空整備士資格受験に必要な内容を対象に、その取扱要領や整備要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深める。 二等航空整備士資格受験レベル(学期末試験にて70点以上取得)を目指す。</p>		
授業計画	<p>受験機の機体、発動機、電子装備について、その取扱要領や整備要領等を実践的に教授し、知識と実技を受験レベルに深める。</p>		
テキスト	<p>受験機サービスマニュアル、エンジン・オーバーホール・マニュアル、受験機飛行規程 耐空性審査要領、サーキュラー集(航空局安全部) 各種技術通報等</p>		
試験／成績 評価方法	<p>受験レベル審査による評価</p>		
その他			

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	技術(整備に必要な技術)(実技・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	112	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	特定の航空機全般を対象に、その取扱要領や整備要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深める。二等航空整備士資格受験レベル(学期末試験にて70点以上取得)を目指す。		
授業計画	受験航空機または、二等航空整備士受験に必要な内容を対象に、その取扱要領や整備要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。		
テキスト	受験機サービス・マニュアル、エンジン・オーバーホール・マニュアル、各種技術通報、飛行規程、耐空性審査要領、サーキュラー集(航空局安全部)等		
試験／成績評価方法	受験レベル審査による評価		
その他			

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	技術(航空機の点検作業)(実技・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	84	授業方法	実習・演習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	受験機の点検要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深め、二等航空整備士資格受験レベル(学期末試験にて70点以上取得)を目指す。		
授業計画	受験機について点検要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深め、二等航空整備士資格受験レベルを習得させる。		
テキスト	受験機サービス・マニュアル、エンジン。オーバーホール・マニュアル 各種技術通報、飛行規程、科内管理要領、耐空性審査要領、サーキュラー集(航空局安全部)等		
試験／成績評価方法	受験レベル審査による評価		
その他			

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	技術(動力装置の操作)(実技・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	112	授業方法	実習・演習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	<p>受験機の試運転要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深め、安全に試運転できることを目指す。 また、二等航空整備士資格受験レベル(学期末試験にて70点以上取得)を目指す。</p>		
授業計画	<p>受験機について試運転要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。</p>		
テキスト	飛行規程、科内管理要領ほか		
試験／成績評価方法	受験レベル審査による評価		
その他			

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	受験対策(実技・専門科目)		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	98	授業方法	講義・演習・実習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	二等航空整備士実地試験に対応する力を身につける。		
授業計画	口頭試問、実技の演習を中心に二等航空整備士実地試験に対応する力を身につけさせ、受験レベルに到達させる。		
テキスト	各教科教科書、模擬問題集(学校作成)		
試験／成績 評価方法	受験レベル審査による評価		
その他			

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	就職対策（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	社会人として必要なマナー、文書の作成、面接要領等について必要な知識を習得。		
授業計画	社会人として必要なマナー、文書の作成、面接要領等について教授する。		
テキスト	一般出版社刊行のマナー本、前年度以前の受験報告資料		
試験／成績 評価方法	課題提出、実面接による評価		
その他			

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	課外授業（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義・実習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	学校、社会のルールを認識し、協調性、自主性、連帯意識を養うなど 普通の授業で得にくいものを得る		
授業計画	オリエンテーション、球技大会、学園祭、ボラティア活動等、学生として参加 が求められている各種行事		
テキスト	各行事資料		
試験／成績 評価方法	出席確認による(評価は無し)		
その他			

開講年度	2019		
開講学期	前期・後期		
科目名	総合（一般科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	授業、訓練で理解できなかった部分をレビューし、積み残し無しで次のステップ(授業)に望めるようにする。		
授業計画	授業、訓練で理解できなかった部分をレビューし解説を行い、積み残し無しで次のステップ(授業)に望めるように教授する。		
テキスト	各教科テキスト		
試験／成績 評価方法	出席確認による(評価は無し)		
その他			